

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	皮膚悪性腫瘍	
	タイプ	メラノーマ	
タイトル情報	論文の英語タイトル	Risk of cutaneous melanoma in relation to the numbers, types and sites of naevi: A case-control study	
	論文の日本語タイトル	母斑の数とタイプ、部位との関連でみたメラノーマの発生リスク：症例対照研究	
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し (1)	
	ガイドライン上での目次名称	MM-CQ2-2	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見（IV）	
	Pubmed ID	8664138	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Br J Cancer	
	雑誌 ID		
	巻	73	
	号	12	
	ページ	1605-11	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 (1)	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 (2)	
	発行年月	1996 Jun	
	著者情報		氏名
筆頭著者		Bataille V	ICRF Skin Tumour Laboratory, UK
その他著者 1		Newton-Bishop JA	同上
その他著者 2		Sasieni P	Dept. of Mathematics, Statistics and Epidemiology, Imperial Cancer Research Fund, UK
その他著者 3		Swerdlow AJ	Epidemiological Monitoring Unit, London School of Hygiene and Tropical Medicine, UK
その他著者 4		Pinney E	Dept. of Mathematics, Statistics and Epidemiology, Imperial Cancer Research Fund, UK
その他著者 5		Griffiths K	同上
その他著者 6		Cuzick J	同上

	その他著者 7		
--	---------	--	--

	目的	通常型母斑と atypical nevus のメラノーマ発生へのリスクの検討	
	研究デザイン	症例対照研究	
	セッティング	Thames 川の北東部地域の病医院	
	対象者	同上地域の 1989-1993 年のメラノーマ患者 426 人と対照 416 人	
	対象者情報（国籍）	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず （2）	
	対象者情報（性別）	1.男性 2.女性 3.男女区別せず （3）	
	対象者情報（年齢）	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず （14）	
	介入（要因曝露）	皮膚科医による全身の 2mm 以上の母斑（通常型と atypical nevus ）の個数と分布の調査	
	エンドポイント（アウトカム）	エンドポイント	区分
	1	通常型母斑の個数とメラノーマ発生リスク	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	2	atypical nevus の個数とメラノーマ発生リスク	1.主要 2.副次 3.その他（1）
	3	skin type、母斑の部位などからみた母斑とメラノーマの関係	1.主要 2.副次 3.その他（2）
	4		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	5		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	6		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	7		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	8		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	9		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	10		1.主要 2.副次 3.その他（ ）
	主な結果	1) atypical nevus (AN)(Newton らの scoring system によって定義: Melanoma Res 4:199, 1994)がもっとも有意なメラノーマ発生のリスク因子であり、AN が 4 個以上の者の odds ratio(OR)は（0 個のリスクを 1 として）28.7(95%CI:8.6-95.6)となった。 2) 全身の通常型母斑の個数もメラノーマ発生の重要な危険因子で、100 個以上の者の OR は（4 個までの者のリスクを 1 として）7.7(3.8-15.8)となった。 3) 日光暴露部の母斑のみでなく、非暴露部（前頭部、足背、臀部）の母斑もメラノーマ発生のリスク因子であることが分かった。	
	結論	母斑の個数が多いとメラノーマ発生のリスクが高まる。とくに AN が有意な危険因子といえる。	

	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	斎田俊明
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類（IV） 母斑の個数とメラノーマ発生のリスクを皮膚科医や疫学の専門家が協力して調査、検討したものであり、信頼できる研究といえる。英国白人が主たる対象であるので、結論がそのまま日本人に当てはまるかは吟味を要する。